

Strix 11 : 353-355 (1992)

石川県加賀地方におけるハチクマとオオタカの繁殖初記録

池田善英^{1・2}・須藤一成²・真崎 健²

はじめに

筆者らは、北陸および近畿地方の日本海側地域を中心として、ワシタカ類の生息・繁殖状況に関する調査を行なっている。石川県加賀地方において、ミサゴ *Pandion haliaetus*、ハチクマ *Pernis apivorus*、オオタカ *Accipiter gentilis* 3種が近接して繁殖していることが、1991年に確認された。石川県能登地方では、1990年にオオタカの営巣地、1991年にハチクマの営巣地がともに発見されており、これらが石川県における両種の繁殖初確認である。ミサゴについては、石川県内での繁殖は以前より知られていた。しかし、加賀地方においては、これらの種の繁殖は確認されていなかった。今回は、加賀地方におけるハチクマとオオタカの繁殖初記録として、営巣環境を中心に報告する。

本文に先立ち、現地調査の実施に種々の便宜を図って下さった金沢市の(株)環境公害研究センターに厚くお礼申し上げる。また現地調査に協力していただいた、希少猛禽類研究センターの池田真弓、日本海ワシタカ研究会の松村俊幸、山本正恵、萩原勝則の各氏のほか、日本動物植物専門学院金沢校の学生諸氏に深謝する。

調査地域と方法

調査地域は、石川県加賀市の南西部で、福井県境に近い丘陵地帯である。約400haの調査範囲のほとんどは、コナラ *Quercus serrata* を主とした二次林で、スギ *Cryptomeria japonica* 植林や近年伐採された低木林などのほか、アカマツ *Pinus densiflora* 林も多い。調査地域の詳細な地名や図は、オオタカなどの密猟や過度の観察行為を未然に防ぐために明記しない。

営巣地の探索は、(1) 調査定点から、巣内ビナへの親鳥による餌の運搬行動の観察による営巣地域のしほりこみと、それに引き続く(2) 現地踏査によった。行動観察の際には、翼の欠損による個体識別のほか、複数定点からのトランシーバーをもちいた連係観察を行なった。調査は、1990年9月から1991年9月までの1年間に49日間のべ165人の調査人員により行なった。

ハチクマ

調査地域でハチクマを初めて確認したのは1991年5月19日であった。その後、特徴のあるディスプレイも頻繁に観察され、調査地域と周辺地域をあわせて3つがいの生息が確認された。6月19日には、調査地域内で巣材を運搬する個体が観察され、7月8日には餌を運搬する個体も観察された。7月18日には雄個体による餌の運搬が頻繁に観察され、半径100m程度まで営巣地域がしほりこまれた。同日午後より、地上からの目視により営巣木の探索を行なった結果、スギにかけられた巣が発見された。

発見時、黒い羽根が少し生えてきたばかりの2羽の巣内ビナが確認され、おもに雄親が餌(ハチの巣)を巣へ運搬しており、雌親は巣の付近にいた。観察者が巣に近づいたとき、親鳥は巣から離れた

1992年10月25日受理

1. 金沢大学大学院自然科学研究科生命科学専攻環境生物学講座、〒920-11 石川県金沢市角間町
2. 日本海ワシタカ研究会、〒921 石川県金沢市西泉4-135-2 希少猛禽類研究センター内

林内や上空を時々静かに飛ぶのみで、巣内ビナも静かに伏せていた。2羽のヒナはその後順調に成育し、8月7日の調査時には巣内にいたが、14日の調査時には巣立っていた。巣立ち後も、少なくとも8月17日までは巣近辺での給餌行動が観察された。

営巣木は、新興住宅地のすぐ北に隣接する丘のスギ林内にあり、標高約55mの丘の最高点より約50m離れた標高約40mの南南東向き斜面上にあるスギで、周囲のスギ中では中位の大きさであった。繁殖個体への影響がほとんどなくなった8月19日に、昇柱器により営巣木に登って測定を行なった結果、樹高は19.5m、胸高直径は48cmであった。巣は地上から高さ15.1mで、直径21cmの幹から、北北西へ張り出した横枝のつけ根部分にかけられており、スギの下枝が視界をさえぎるためにヒナがいないと巣とは確認できなかった。巣の外径は85cm×73cm、厚さは25cmであった。巣材は、背葉のついたアカマツの枝がほとんどで、ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* も少し混じていた。

営巣地近辺は、スギ植林とアカマツ・コナラ混交林の境界であった。高木層は、高さ15~20m程度のスギ、アカマツ、コナラよりなり、亜高木層には高さ10m程度のコシアブラ *Acanthopanax sciadophylloides* がわずかに見られた。低木層は高さ1.5m程度のヤマウルシ *Rhus trichocarpa*、コシアブラ、ヒサカキ *Eurya japonica* などからなっていた。

オオタカ

調査地域でオオタカを初めて確認したのは1991年5月9日である。5月26日には成鳥2羽のつがい確認され、餌の運搬も5月26日と7月22日に観察された。7月25日、8月5日、7日には、クマタカ *Spizaetus nipalensis* 成鳥1羽が調査地域内の木にとまるたびに、オオタカ成鳥1羽がモビングしていた。また8月7日には、クマタカがとまっていた場所の近くでオオタカの巣立ちビナ1羽が観察された。その後も巣立ちビナの姿や声が確認されたが、巣立ちビナの行動範囲がかなり広く、営巣地域をしぼりこむことはほとんどできなかった。オオタカの営巣可能性のあるアカマツは、調査地域内にかかなり広く分布していたが、定点調査と平行して14日より営巣可能性のある林内の踏査を行なった結果、8月17日に営巣地が発見された。発見時には、巣のすぐ横のアカマツ枯木に巣立ちビナ1羽が確認され、翌日にも近辺で観察された。

営巣木は、主稜線より南西方向に約10m離れた標高約76mの尾根上にあるアカマツで、周囲のアカマツ中でも大きい部類であった。発見翌日に営巣木に登り、巣の測定を行なった。樹高は18.5m、胸高直径は41cmであった。巣は地上高10.0mの位置の、幹が二叉にわかれ、さらに横枝5本が放射状に派生した位置にかけられており、この部分の幹の直径は29cmであった。巣の外径は83cm×56cm、厚さは37cmであった。巣材は、背葉のついたアカマツの枝ばかりで、巣内からは餌となった鳥類の骨の一部やペリットがみつかった。営巣地近辺は、営巣木と同程度の40~50年生のアカマツ林で、林内は亜高木層・低木層ともに切りひらかれて明るく、高さ3~5mのヒノキとスギの幼木が植林されていた。

おわりに

石川県内では、これまでに24種のワシタカ類が記録されている。このうち、繁殖確認されているのはミサゴ、トビ *Milvus migrans*、ツミ *Accipiter gularis*、サシバ *Butastur indicus*、クマタカ、チュウヒ *Circus aeruginosus*、ハヤブサ *Falco peregrinus* と、県鳥に指定されているイヌワシ *Aquila chrysaetos* の8種であった。今回報告した2種について、オオタカは繁殖可能性があるとはされていたが、ハチクマについては繁殖可能性すら指摘されていなかった（日本野鳥の会石川支部1990）。

筆者らは、イヌワシを主たる研究対象としているため、山地帯から高山帯の繁殖期の鳥類相の概要は把握しているつもりであるが、最近話題になることの多い里山（丘陵帯）の繁殖鳥類については未知な部分が多かった。特に、山地帯の調査では、オオタカは秋から冬に見られ、ハチクマは春と秋に通過するだけとの認識であった。今回の調査を通じて、少なくとも石川県内の比較的良好な自然環境の残る里山には、これまで知られていなかっただけで、オオタカやハチクマが繁殖している可能性がかなり高いと思えるようになった。今後は、石川県内を中心に北陸三県におけるこれら里山のワシタカ類の繁殖地域の概要把握と営巣環境の分析を行いたいと考えている。

引用文献

日本野鳥の会石川支部. 1990. 石川県の自然, 野鳥. 橋本確文堂企画出版室, 金沢.

First breeding records of Honey Buzzards and Goshawks in Kaga, Ishikawa

Yoshihide Ikeda^{1,2}, Kazunari Sudo² and Ken Mazaki²

Nest sites of Honey Buzzards *Pernis apivorus* and Goshawks *Accipiter gentilis* were first found in Kaga district, Ishikawa Prefecture, in 1991. Buzzards nest, 25 cm high and 85×73 cm in diameter, was built on a branch near the trunk 15.1 m above the ground. The tree was a cedar *Cryptomeria japonica* 19.5 m high with d.b.h. of 48 cm at 40 m a.s.l. Hawks nest, 37 cm high and 83×56 cm in diameter, was built between main and secondary trunk 10.0 m above the ground. The tree was a pine *Pinus densiflora* 18.5 m high with d.b.h. of 41 cm at 76 m a.s.l.

1. Department of Environmental Biology and Health Science, Kanazawa University, Kakuma, Kanazawa 920-11
2. Nihonkai Working Group on Birds of Prey, c/o Rare Raptor Research Center, Nishiizumi 4-135-2, Kanazawa 921